
どしゃぶり

bunz0u

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
どしゃぶり

【Nコード】
N6803E

【作者名】
bunzou

【あらすじ】
大学生であるところの大杉涼音（19）は雨に降られてどうしたものかと悩んでいた。それだけのちょっとした話。

外は突然のどしゃぶりだった。梅雨時は仕方がないとはいえ、天気予報を無視したから仕方がないとはいえ、傘がないという状況は実に遺憾千万な事態だった。そんなわけで、大学生であるところの大杉涼音（１９）は極めて不機嫌だった。

「生協で買えばいいじゃん」

「ださい傘しか売ってないから嫌だし、そもそも雨が降ったというだけで、いちいち傘を買うのが嫌だ、耐えられない」

友人のもつともな助言も涼音はあっさりと流した。友人はめげない。

「じゃあ借りればいいんじゃないの？ 忘れ物の傘ならたくさんあるし、センスのいいやつ選べば問題ないでしょ」

「返さなくちゃいけないのが嫌だ。ヒモ付きのものは受け取らない主義でさ、モノでも現金でも行為でも」

「そういうのって、なんか小物っぽくない？」

「あいにくと鷹揚でも寛容でも大物でもないんだよね。それに、ちよつとしたことでもすぐに貸しを作った気になる馬鹿がいるから油断も隙もあつたもんじゃないって」涼音は何かに気づいて、友人の背後を指差した。「例えばああいうのとか」

友人が振り返ると、そこには傘を２本持った山男的なむさ苦しい男がいた。

「涼音ちゃん、こんなこともあるつかと傘は用意してきたから安心したまえ！」

「そんじゃ、邪魔しちや悪いから先に帰るね」

友人は意味ありげな目をして去っていった。涼音は極度に激しく不機嫌になった。山男はそれに気づかない。

「傘は視認性抜群のビニール傘だよ！」

「そう、ありがと」

涼音は気味悪いくらいの笑顔で、山男が差し出すビニール傘を受け取った。

「さあ、帰ろうチツ！」

背中を向けた山男の尻に涼音の持ったビニール傘が突き刺さっていた。涼音は爽やかな笑顔とビニール傘と悶絶する山男を残して立ち去った。

「忘れ物傘借りてこ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6803e/>

どしゃぶり

2010年10月8日13時58分発行